

編集後記

神奈川県立図書館副館長 渋谷 佳代子
(神奈川県立図書館紀要編集会議座長)

今年も県内各地で梅花咲く季節に、「神奈川県立図書館紀要」を2年ぶりにお届けすることができました。

1年おきに発行している当館紀要ですが、第14号となる今号は、研究・調査・分析の論文が3編、企画展示や講座に関するものが2編、新たな取り組みに関するものが1編と計6本の論文から構成されています。

この2年間では、一昨年5月に神奈川県立川崎図書館が、かながわサイエンスパークに移転リニューアルオープンしたほか、横浜市西区紅葉ヶ丘の県立図書館では、昨年9月の外構等改修工事完了により、散策路等が整備されるなど、県立の図書館をめぐっては、施設面を中心に大きな変化がありました。

一方、人生100歳時代を迎える中、図書館そのもののあり方も変わりつつあります。従来、「本をそろえ、貸し、返してもらう」だけの機能ではなく、これからは、「知」に関する様々な知見等をお持ちの団体や個人の方々と連携しながら、図書館をいかに魅力的な場所にして、利用者の方々に楽しんで「知」を深めていただくかという視点や企画力が、司書を中心とした職員にますます求められてきます。

そうした「他者との連携」という時代の要請が、今回の6編の論文や報告にも反映されています。「神奈川県における逐次刊行物総合目録の変遷」の分担保存や相互協力、「神奈川県立図書館による協力貸出の推移」の協力貸出は、従来から行っている取り組みではありますが、図書館は単独で存在するのではなく、県内他の図書館との連携や協力が不可欠なことを表しています。

また、「川崎市夢見ヶ崎動物園とのコラボ催事」や「神奈川県立図書館でのウィキペディア編集イベントの開催報告」での展示やイベントの開催は、従来の連携から一歩進めて、今までは想定しなかった団体や個人の方と協力

しながら、手さぐりで利用者や参加者の関心を深めてもらう企画を実現していく経過が示されています。

また、「生涯学習相談業務の課題と展望」では、地域や学校との連携や他のイベントとのコラボの必要が説かれていますし、「職員提案事業「『人生100歳時代』を支える県立図書館」の実践まで」の施策化された事業では、県内の大学や講師の方々の協力なしには考えられなかったものです。

図書館は様々な分野の図書や資料が集積していますから、活動するすべての団体や個人の方々との連携の可能性があることを示唆しています。今後も人生100歳時代を見据え、このようなバラエティに富んだ企画が出てくることを期待してください。

こうした時代の趨勢を、敏感に感じとり、他者との関わりを多かれ少なかれ意識し、ルールを自分で敷きながら進めている担当職員の思いを感じていただけたら幸いです。掲載した論文は課題提起に重点がおかれているものもあり、必ずしも全てで今後の具体的な方向性や施策内容を示しているものではありませんが、それだけに現場で職員が日々悩みながら奮闘している姿を少しでも想像いただけたらうれしく思います。

最後に、今号を執筆した職員の日頃の研鑽に改めて敬意を表すとともに、読者の皆様にはこの紀要が今後の様々な場面での一助となることを念じ、当館にかかわるすべての皆様に感謝を申し上げ、編集後記とさせていただきます。